泣くなよ小春

帝キネ　現代映畫

原作者　小瀧すみ子
監督者　松本英一
撮影者　和志田誠

――主要役割――

舞妓小春　高津愛子
失業者常吉　瀧巨章太郎
小春の妹お千代　徳若六子
藝妓春路　八島京子
若旦那仙之助　若葉馨
父仙左衛門　小島洋々
女給つや子　花柳あやめ
小間使さし子　歌美陽子
小春の母せき　尾崎静子

寫眞　「泣くなよ小春」帝キネ松本英一作品、主演者の高津慶子。

女將けふ　園千枝子
勞働者　建部俊郎
女土方　皐月あやめ

解説――「海邊の巖」に繼ぐ松本英一氏の作品である。

略筋――夜更けの橋上でぼんやり水面を眺めて思案に餘つてゐた失業者常吉の眼を突！激しく脅した黒い影、彼は吾を忘れて身を跳らした。正に溺死せんとした舞妓小春は危ふく救はれたのである。死を決するまでの小春には悲しい事情があつた。彼女には病める母と小さな妹がある他に頼るべき者とてはない、明日に迫る一家の生活の犠牲となつて若く美しい小春、身を賣つた。辛いつとめも涙を忍んで働かねばならない。若旦那の仙之助は小春を我意に從はせやうとするさく附纏ふ。金が物を言ふ世の中である。女將や姐藝妓の春路までが執拗に口説く。小春にとつては堪えられない苦痛である。然し結局は弱い女、輝かしい處女の誇りは無惨にも蹂躙されて終つた。勝ち誇つた仙之助の苦々しい笑、小春は泣いた、世の中が眞暗になつて終つた。――然し運命は今宵常吉の手に傷つける小鳩を與へた。虐げられた小春の魂は常吉の純情によつて明日への光明を認められるのであつた